Yamakaido

ISSN 0917-8821

「やまかいどう」は埋蔵文化財センター建設時に発掘調査を行った敷地内の「山海道遺跡」にちなんで命名された情報誌です。

栃木県埋蔵文化財センターだより

やまかいどう

No. 36
2004.5

特集 平成15年度栃木県発掘速報

調査区北側（南西上空より）

SZ-57小石室（200cm×55cm×30cm）

―― 古墳時代の大集落 ――

市之塚遺跡（二宮町）

市之塚遺跡は二宮町の北東部に位置し、南流する小貝川西岸の二宮町大字高田字市之塚に所在しています。この発掘調査は県営圃場整備事業に先立って23,200m²を発掘調査することになりました。平成15年度はこのうち調査区西側を中心とした12,650m²の発掘調査を行いました。

今回の調査では縄文時代早期（今から9,500年前）の竪穴住居跡・陥し穴状遺構、古墳時代（4世紀～７世紀）の竪穴住居跡・円墳・小石室、奈良・平安時代（８世紀～）の竪穴住居跡・掘立柱建物跡、中近世（12世紀～）の溝跡や墓壙、井戸跡や多数の土坑を確認しました。

市之塚遺跡で最も規模の大きな集落跡は古墳時代前期から後期を中心とした時期です。竪穴住居跡を調査区全域に確認しており、今年度はそのうちの123軒の調査を終了しました。特に注目されるのはこの集落跡の中に円墳が４基、小石室が２基見つかっていることです。古墳時代は住んでいるムラと墓域は明確に地域分けすると言われています。今回ムラと同じ地域に古墳が見つかった意義は、当時のムラ社会のあり方や地域開発のようすなどを考えていく上で大きな意味を持つと思われます。

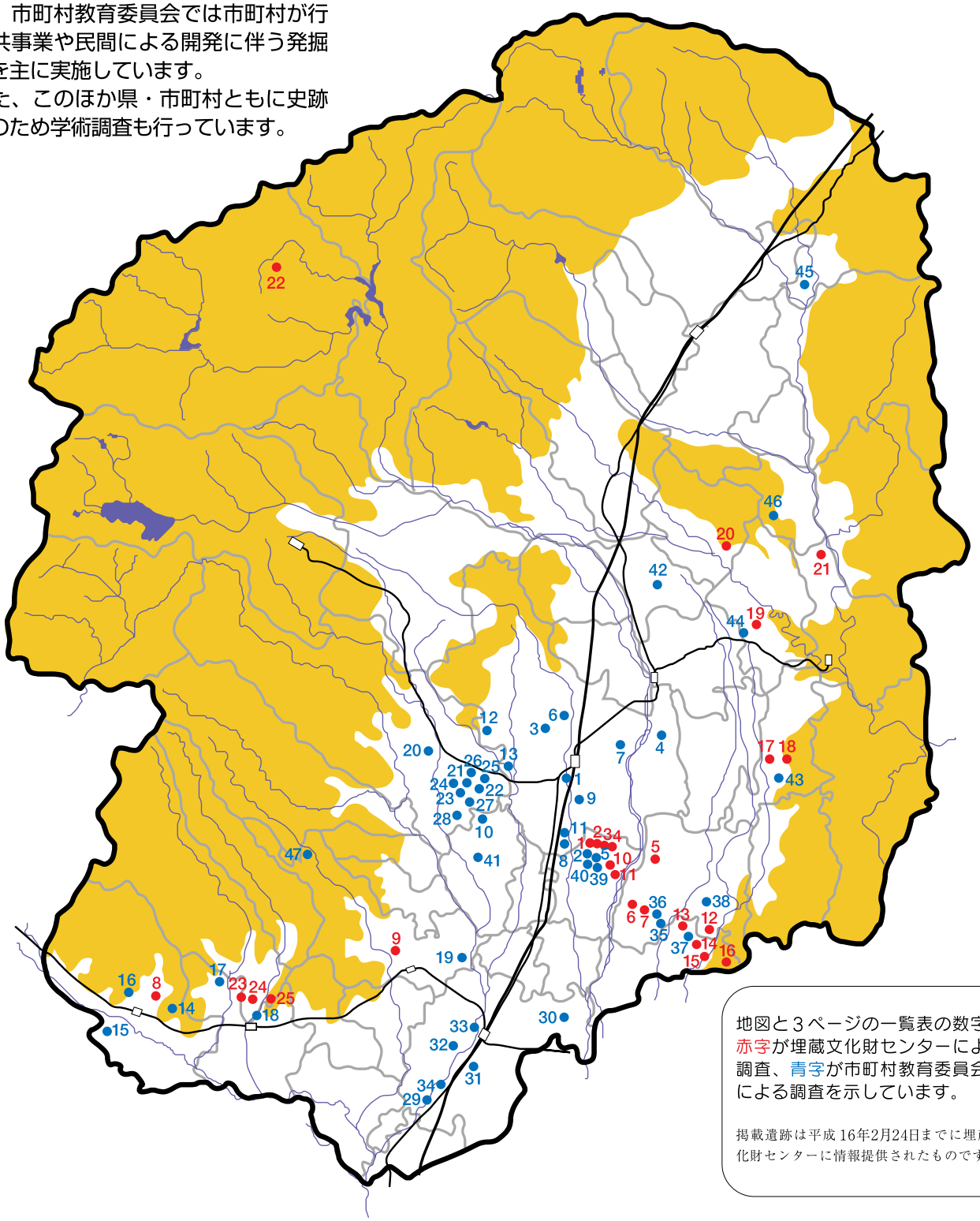
《 も く じ 》

◎特集　平成15年度　栃木県発掘速報
○栃木県内発掘調査一覧 ……3
○県内発掘調査の動向 ……4
○埋蔵文化財センターが行った発掘調査から …6
○市町村教育委員会が行った発掘調査から …9
○発掘調査現地説明会資料
西赤堀遺跡 ……15
長者ヶ平遺跡 ……19
◎平成16年度巡回展　栃木の遺跡 ……23
◎平成15年度発掘調査報告会 ……24

マークは平成16年度巡回展「栃木の遺跡―最近の発掘調査の成果から」関連の項目です。
マークは平成15年度「栃木県発掘調査報告会」関連の項目です。

埋蔵文化財センターでは、国や県による道路建設、工業団地造成などの公共工事に伴う事前の発掘調査を行っており、一方、市町村教育委員会では市町村が行う公共事業や民間による開発に伴う発掘調査を主に実施しています。

また、このほか県・市町村ともに史跡整備のため学術調査も行っています。



地図と3ページの一覧表の数字は赤字が埋蔵文化財センターによる調査、青字が市町村教育委員会等による調査を示しています。

掲載遺跡は平成16年2月24日までに埋蔵文化財センターに情報提供されたものです。

平成15年度 栃木県内発掘調査一覧

市町村教育委員会が行った発掘調査

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
1	宇都宮城跡	宇都宮市	中世･近世
2	立野遺跡	〃	古墳
3	野沢向内遺跡	〃	縄文
4	薬師堂遺跡	〃	中世･近世
5	砂田姥沼遺跡	〃	古墳～平安
6	瓦塚古墳群	〃	古墳
7	東山道跡	〃	奈良･平安
8	宇都宮機器南遺跡	〃	古墳
9	さるやま城古墳群	〃	古墳
10	鳴神遺跡	〃	縄文･奈良･平安
11	宮の内遺跡	〃	古墳
12	御城田遺跡	〃	縄文
13	宿尻遺跡	〃	古墳
14	堤谷古墳群	足利市	古墳
15	藤本観音山古墳	〃	古墳
16	足利氏居館跡	〃	平安･中世
17	北の内遺跡	佐野市	縄文･古墳～平安
18	佐野城跡	〃	中世
19	下野国府跡	栃木市	奈良･平安
20	津村遺跡	鹿沼市	縄文･奈良･平安
21	宝龍内遺跡	〃	古墳･縄文･奈良･平安
22	岩石北遺跡	〃	縄文･弥生
23	上台原古墳群	〃	古墳
24	明神前遺跡	〃	縄文
25	茂呂松原北遺跡	鹿沼市	縄文･奈良･平安
26	茂呂向山遺跡	〃	縄文･奈良･平安
27	関口遺跡	〃	縄文･弥生･近世
28	鳥喰前遺跡	〃	縄文･奈良･平安
29	乙女北浦遺跡	小山市	縄文･弥生･中世
30	小山添遺跡	〃	縄文
31	外城遺跡	〃	縄文～近世
32	粟宮宮内東遺跡	〃	縄文～平安
33	祇園城跡	〃	中世
34	間々田八幡前遺跡	〃	縄文･中世･近世
35	鬼久保Ⅱ遺跡	真岡市	縄文
36	大谷Ⅰ遺跡	〃	古墳
37	御前城跡	〃	中世
38	桜町陣屋跡	二宮町	近世
39	上郷古墳群	上三川町	古墳
40	磯岡遺跡	〃	古墳･奈良･平安
41	桃花原古墳	壬生町	古墳
42	堂ッ原遺跡	氏家町	縄文
43	寺平遺跡	市貝町	古墳～平安
44	馬屋久保遺跡	南那須町	奈良･平安
45	舟戸古墳群	那須町	古墳
46	三輪仲町遺跡	小川町	縄文
47	久分遺跡	粟野町	縄文

（平成16年2月24日現在、県文化財課へ届出済みのものである。）

埋蔵文化財センターが行った発掘調査

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
1	砂田遺跡	宇都宮市	縄文～奈良･平安
2	西刑部西原遺跡	〃	旧石器～奈良･平安
3	立野遺跡	〃	旧石器～中世･近世
4	中島笹塚遺跡	〃	古墳
5	赤曽Ⅱ遺跡･亀山北遺跡	真岡市	古墳～平安
6	原北遺跡	〃	中世
7	伊勢崎Ⅲ遺跡	〃	古代～中世
8	神畑遺跡	足利市	縄文
9	栃木市西部地区	栃木市	縄文～奈良･平安
10	西赤堀遺跡	上三川町	古墳～奈良･平安
11	五霊遺跡	〃	古墳～中世
12	市之塚遺跡	二宮町	縄文～中世･近世
13	西物井遺跡	〃	古墳～奈良･平安
14	峰高前遺跡	二宮町	古墳～奈良･平安
15	馬場先遺跡	〃	縄文
16	曲田遺跡	〃	古墳
17	彦七新田遺跡	市貝町	縄文･古墳～奈良
18	高林遺跡	〃	古墳～平安
19	長者ヶ平遺跡	南那須町	奈良･平安
20	江川南部Ⅱ地区	喜連川町	縄文～奈良･平安
21	栃平B遺跡･古館遺跡	馬頭町	縄文･近世･平安
22	湯西川ダム関連遺跡	栗山村	縄文･中世･近世
23	芝宮遺跡	田沼町	古墳～奈良･平安
24	栃本西遺跡	〃	古墳～奈良･平安
25	寂光沢遺跡	岩舟町	奈良･平安

平成15年度県内発掘調査の動向

栃木県の平成15年度の発掘動向としては、記録保存を目的とした緊急調査の減少が明確になったと考えられる。行政努力の結果であろうか、発掘件数は漸増しているが、面積・期間とも小規模化したことが歴然としている。一方、下野国分僧寺（国分寺町）など保存や史跡整備を前提とした調査に、成果がみられたのも今年度の特徴になる。具体的に、発掘調査動向を（財）とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センターからみていこう。

大規模かつ継続的な調査には、北関東自動車道路建設に伴う調査がある。今年度の調査は上三川町以東が中心になった。まず、西赤堀遺跡（上三川町）では、昨年度に調査した古墳時代の集落から浅い谷を挟んで東側、台地上に立地する同時代の円墳2基を調査した。横穴式石室の構造や副葬品ばかりか、集落と墓域の関係にも踏み込める成果を得た。鬼怒川西岸の微高地上に立地する五霊遺跡（上三川町）では、古墳時代の集落や中世以降の区画溝が発見され、鬼怒川低地の開発を考える好材料になる。

さらに、五行川・小貝川流域の遺跡をみていく。伊勢崎Ⅲ遺跡（真岡市）では旧石器時代・古墳時代前期、西物井遺跡（二宮町）では縄文時代・古墳時代・中・近世、峰高前遺跡（二宮町）では古墳時代～中世、曲田遺跡（二宮町）では古墳時代中・後期、馬場先遺跡（二宮町）では古墳時代・中世の遺構や遺物が発見されている。

考古学的には空白であった芳賀地域南部地域の歴史を考えるとき、貴重な成果になると期待される。

一方、北関東道路西側の佐野・足利地区は確認調査が中心で、本格的な調査は平成16年度以降になる。

宇都宮市南部のテクノポリス地区の調査も最終局面を迎えている。今年度は砂田遺跡16～20区と中島笹塚遺跡6区の調査が実施された。砂田遺跡は古墳～奈良・平安時代の拠点的集落であるが、今回の調査は集落の外縁部に当たる。ここでは5世紀中葉～6世紀前葉の円墳6基が調査された中島笹塚遺跡の成果を紹介する。全長20m前後の比較的小型な円墳群であるが、古式群集墳の存在は、当地域の先進性を示す記念物である。

国土交通省関係では、今年度も湯西川ダムに伴い川戸釜八幡遺跡（栗山村）の調査を実施した。縄文時代後期後半の遺物包含層や竪穴住居、平安時代の住居跡が発見された。

土木部関係では6遺跡の調査を実施。主要地方道宇都宮・茂木線芳賀バイパスでは市貝町の高林遺跡と彦七新田遺跡、国道408号線真岡北バイパスでは真岡市亀山北遺跡と赤曽Ⅱ遺跡、国道293号線馬頭バイパスでは馬頭町栃平B遺跡と古舘遺跡を調査していた。高林遺跡では古代の住居跡が約60軒、彦七新田遺跡では縄文時代草創期の陥し穴や奈良・平安時代の遺構群、亀山北遺跡ではS字甕の出土した古墳時代前期の住居跡、赤曽Ⅱ遺跡では奈良・平安時代の集落の一部、栃平B遺跡では近世の方形竪穴状遺構と掘削遺構など注目すべき成果をあげている。特に、彦七新田遺跡は小貝川の支流からの比高約30m、山間地に形成された奈良・平安時代の集落で、後述する二宮町市之塚遺跡とは好対照の立地である。

▲山間部に立地する市貝町　彦七新田遺跡（南上空から）

農務部関係では、県営圃場整備事業小貝川西Ⅱ期地区に伴い調査した市之塚遺跡（二宮町）が注目される。小貝川左岸の細長い低台地上に立地する大規

現地説明会資料　発掘調査の途中や終了時には現地で説明会を行うことがあります。調査担当者が直接案内するほか、資料の配付や出土品の展示も行います。15ページから22ページは、平成15年度に遺跡で開催した際の「現地説明会資料」です。

模な遺跡で、縄文～江戸時代まで多種多様の遺構が発見されている。遺跡の中心は、古墳時代前期～奈良・平安時代の200軒以上の住居跡である。北関東自動車道の調査成果と同様に、小貝川低地開発の問題を考えるとき、貴重な情報を提供する遺跡である。

センターが調査した遺跡の最後は、重要遺跡として調査した長者ヶ平遺跡（南那須町）を取りあげる。駅家か、郡家関連の遺跡か。その性格が注目されるなか、3年目の調査を実施した。コの字に配置された建物群の南西部やタツ街道と呼ばれる古道などの調査を実施し、区画溝や多数の倉庫風の地業遺構や掘建柱建物などが発見された。しかし、東山道や伝路との関係、芳賀郡家や塩谷郡家との関係など、遺跡の性格を決定するには解決すべき課題が残った。遺跡の注目度は高く、南那須町と共催した遺跡説明会は、多くの考古学ファンで盛況であった。

次に、市町村が実施した主要な調査を紹介する。前述したように、緊急調査は減少したが、保存や整備を目的とした調査には注目すべき成果がみられた。

まず、市町村の実施した緊急調査を、時代順にみていく。旧石器～弥生時代は低調であった。そのなかで、市道建設に伴い宇都宮市鳴神遺跡では、縄文時代中期後半～後期の遺物や遺構が発見された。

古墳時代では3遺跡を紹介する。最初の小山市小山添遺跡は、病院建設に伴い古墳時代前期の10軒の住居跡を調査。住居は4世紀中頃と考えられ、少量ながらS字甕の出土は注目される。次の市貝町寺平遺跡は運動場造成に伴い調査継続中の古墳～奈良・平安時代の大規模な集落である。カマドに近隣で採石された凝灰岩の切石を使用した古墳時代後期の大型な住居群、奈良・平安時代の整然と配置された掘立柱建物群などは、当地域の拠点的集落の様相を示すものとして注目したい。最後の足利市堤谷古墳群9号墳は、林道建設に伴い調査が実施された。径16mの山寄せの円墳で、主体部はチャートの割石の横穴式石室。古墳時代終末期の足利市域における小首長の墓の様相が判明した。

奈良・平安時代では、市道建設に伴う栃木市下野国府域の調査成果が注目される。今回の調査は国庁部の外縁部となる東辺外郭溝や北辺大路が発見され、国府域を考えるとき、貴重な資料が得られた。

中世では2遺跡を取りあげたい。一つは公園造成に伴い唐沢山城の西麓、田沼町大沢口での調査。礎石建物跡・掘立柱建物跡・石囲井戸跡などが発見されている。もう一つは都市基盤整備公団の宇都宮テクノポリスに伴い、継続調査中の宇都宮市野高谷薬師堂遺跡。調査も最終段階になり、溝に区画された広大な墓域の様相が判明。すなわち、内部には地下式坑100基以上、井戸140基以上、墓坑2500基以上の存在が判明した。16世紀代の大規模な墓域と考えられるが、類例の少ない異様な空間である。

次に、保存や史跡指定を目的とした調査を紹介する。古墳時代は2つの古墳、いずれも史跡整備を目的とした調査。まず、足利市藤本観音山古墳は、全長約120mの前方後方墳である。今年度は古墳の南西部、周溝が急激に狭くなる地区の外側から発見された遺構群の性格が問題となった。古墳築造時の祭祀ばかりか、古墳築造時の基地的性格を持つ遺構群と理解される。

一方の壬生町桃花原古墳は古墳時代終末期の大型円墳。盗掘を受けたが、巨大かつ精美な複室構造の横穴式石室の全容が判明した。

史跡整備を目的とした調査では、国分寺町の下野国分僧寺跡と南河内町の下野薬師寺跡がある。ともに古代下野を代表する廃寺跡で、国指定史跡になっている。国分僧寺では講堂跡を中心に調査。薬師寺では講堂跡の東南面で特徴的な建物跡が発見され、伽藍配置に一石を投じる結果となった。

南那須町では、当センターで調査した長者ケ平遺跡との関係で、東山道駅路や伝路との交差部の調査を実施し、一定の成果をあげている。長者ケ平遺跡と一体となった史跡整備が期待される。

中・近世では3遺跡。まず、足利市の樺崎寺の調査がある。樺崎寺は足利義兼創建の寺で国指定史跡。今年は史跡整備を目的とした3年目の調査で、浄土式庭園の中島を中心に調査が実施された。もう一つも国指定史跡の小山市祇園城で、整備を目的とした調査が実施された。近世でも二宮尊徳が仕法の拠点となった国指定史跡の桜町陣屋跡（二宮町）の調査が整備目的で実施された。

このように史跡指定や史跡整備を目的に多様な調査が実施されたのである。このような努力の結実の一つに、今年度に宇都宮市と上三川町にまたがる茂原・上神主官衙遺跡の国指定史跡になったことがある。快挙であり、関係者の努力を評価したい。平成15年度の発掘動向は、不況下での埋蔵文化財行政の方向性を示唆したものと考えられる。

（調査部長　橋本　澄朗）

埋蔵文化財センターが行った発掘調査から

栃平B遺跡・古館遺跡（馬頭町）

両遺跡は、武茂川左岸の段丘上にあり、その支流である矢又川を挟んで対峙しています。今回の発掘調査は、国道293号馬頭バイパス建設に先立つもので、いずれも遺跡の中心からは外れた縁辺部の調査です。

栃平B遺跡からは、縄文時代前期と考えられる土坑、古代の竪穴住居跡、近世の方形竪穴状遺構や掘削遺構、土坑などが発見されました。

特に、近世の方形竪穴状遺構としたものは9基発見されており、長さ3m前後の長方形ないしは方形で、深さ1.5m以上あり、岩盤まで掘られています。壁の下方が抉られていたり横穴が掘られていること、ロームと砂礫で埋め戻されているなどの特徴をもち、方向を揃えて規則的な配置をしています。また、階段やブリッジ状の施設、壁には鉄製工具による掘削痕が観察されるものも少なくありません。

一方、掘削遺構としたものは、方形竪穴状遺構の両側に大きく不整形に広がっており、岩盤まで掘られています。方形竪穴状遺構同様、壁下方は抉れるものも多く、工具痕が観察されるものが見られます。

両遺構は重複関係がないこと、壁に残る鉄製工具痕、掘削遺構の陶器などの出土遺物から判断して近世（17～18世紀）のほぼ同じ時期の遺構と考えられます。しかし、県内ではこのような遺構の発掘調査例がなく、調査範囲も限られていることから、遺構の性格や遺跡の景観などははっきりしません。

なお、古館遺跡からは、平安時代の竪穴住居跡1軒と縄文土器片が若干出土しました。

栃平B遺跡方形竪穴状遺構完掘状況（西から）

栃平B遺跡方形竪穴状遺構調査風景（北から）

栃平B遺跡掘削遺構調査風景（北東から）

古館遺跡竪穴住居跡調査風景（南から）

赤曽Ⅱ遺跡・亀山北遺跡（真岡市）

鬼怒川の東側を流れる江川は、五行川に注ぎ小貝川に合流する小さな河川です。この江川の東岸の台地上に赤曽Ⅱ遺跡が、西側の台地上から傾斜地に亀山北遺跡が所在しています。国道408号真岡北バイパスの建設に先立って行った発掘調査の結果、亀山北遺跡からは、古墳時代前期の住居跡6軒・掘立柱建物跡1棟などを確認しました。住居跡からは、口縁部に特徴のある「S」字甕と呼ばれる、東海地方に多い形の土器などが出土しました。また、真岡市教育委員会で調査を行った同じムラの跡からは、鍛造剥片（鉄を造る際に飛び散った粒状の鉄）も出土しており、亀山北遺跡が当時の最先端をいくムラであったことが判ります。

赤曽Ⅱ遺跡からは、平安時代のムラの一部分を確認しました。確認した10軒の住居跡がまとまっている所とは離れた場所に、「コ」字状の周溝と小さなピット32基からなる建物跡（SX−61）があり、ムラ外れの「神社」跡ではないかと考えました。神社ではないかと指摘できる遺構は、県内では3例ありますが、もしSX−61が本当に神社であるとすれば、県内初の村社の確認になります。

赤曽Ⅱ遺跡（西）、亀山北遺跡（東）S遠景（南上空より）

亀山北遺跡Ⅰ区（北西から）

赤曽Ⅱ遺跡 SX−61近景（南から）

中島笹塚遺跡6区（宇都宮市）

この遺跡は、北関東自動車道宇都宮・上三川インターの北側にあります。古墳時代中期～後期の古墳が多い遺跡で、発掘調査はこれまでに5回行っています。今回の調査は、墳丘（土を盛った高い部分）が残っている古墳2基と墳丘を失った古墳4基の合計6基の古墳をおもに調査しました。古墳はすべて周溝（まわりに掘られた溝）を持ち、形は円形と見られますが、直径は12～24mと大きさはさまざまです。

左下の写真は調査が終わったあとの様子です。左上の大きな円が墳丘を持つ古墳で、そのまわりに小さな古墳が作られていることがおわかりいただけるでしょう。中央下寄りの半円形の部分も古墳で、南側は水田を作るために削られています。埋葬した部分はわかりませんでしたが、古墳中央の墳丘を調べたところ、鉄剣の破片や鏡が出土しました。鏡は青銅製で、直径4.6cmほどの小さなものです。鉄剣や鏡は、おそらくここに葬られた人の権力を示し、また魔よけなどの意味を持って死者に添えられたものなのでしょう。

遺跡全景（北上空から）

鏡が出土した状態

曲田遺跡（二宮町）

遺跡は、五行川と小貝川に挟まれた低地帯の微高地上に位置しています。今年度は対象調査地区のうち約16,000m²の調査を実施しました。その結果、古墳2基（円墳1、方墳1）、竪穴住居跡10軒、溝跡13条、土坑20基、小土坑多数が発見されました。中でも溝跡SD－120の覆土上層からは多量の古墳時代中期の土師器を出土しています。また調査区東端で発見された円墳SZ-547、溝跡SD-516の覆土中からは群馬県榛名山起源の火山灰（Hr－FA。6世紀初頭に降灰）が認められることから5世紀後半頃にはこれらの遺構が築かれたと考えられます。なお、竪穴住居跡は調査区西側に多く認められます。

調査区東端の古墳群（北上空から）

調査区西端の住居跡群（北東上空から）

市町村教育委員会が行った発掘調査から

北の内遺跡（佐野市）

北の内遺跡は、佐野市出流原町の国道293号線沿いにあります。今回の調査は、ラーメン店の建設に先立ち行なったものです。調査の結果、縄文時代の住居跡3軒、土坑14基、性格不明遺構2基、ピット76基を検出しました。

第2号住居跡は、小判型で長軸4.3m、短軸3.5mの大きさです。はっきりした炉の跡は検出できませんでしたが、炭化物や焼土粒子が確認できたことから、住居の中央付近で焼成行為を行っていた可能性は高いと思われます。

この住居からは、復元することが可能であった深鉢形の土器のほか、多数の土器片が出土しました。その中でも注目すべき資料として、彩色土器があげられます。この土器片は大型の浅鉢形土器の一部と思われ、口縁部を中心に内面まで彩色が施されています。特に内面は丁寧な仕上がりとなっており、下方にむかって「し」もしくは渦巻き状に彩色が施されています。

また、本遺跡からは、数量は少ないものの、弥生時代中期の土器片も出土しています。再葬墓群を検出した出流原遺跡との関連が注目されます。

（佐野市教育委員会　山口　明良）

北の内遺跡出土土器

第2号住居跡出土彩色土器

第3号住居跡炉設土器出土状況

第2号住居跡遺物出土状況（南から）

桃花原古墳（壬生町）

調査区全景（北側上空より）

桃花原古墳は壬生町の中央部を南流する黒川東岸の台地上に築かれた直径63mの円墳です。桃花原古墳がある町北西部の羽生田地区には、この他国内最大級の家形埴輪が出土した富士山古墳や全長100mを越える前方後円墳の茶臼山古墳などがあり、古代下毛野国を代表する大型古墳が集中しています。

桃花原古墳の発掘調査は平成13年度から平成15年度にわたり、計3回の調査が行われました。

13･14年度の調査からは、桃花原古墳の規模や古墳が造られた当時の姿が判明し、三段に造られた墳丘の斜面には河原石が葺かれていたことや、石室の前面には河原石で造られた「前庭」と称される祭りの場が、ほぼ完全な形で残っていることが確認されました。そして、「前庭」の施設からは追葬のさいに、石室から掻き出されたと思われる金銅張りの馬具や数多くの武具が出土しました。

調査区近景（南より･手前「前庭部」）

調査最終年度となる本年度は、死者を埋葬した石室の残存状況を確認する調査を行いました。

その結果、石室は死者を埋葬した「玄室」と死者に副葬品を供えた「前室」の二つの部屋に分かれ、両部屋の入口には門の施設があったと推測されます。しかし、凝灰岩（大谷石）が使われていたと思われる箇所は、石がきれいに抜き去られていました。

前室全景（北より）

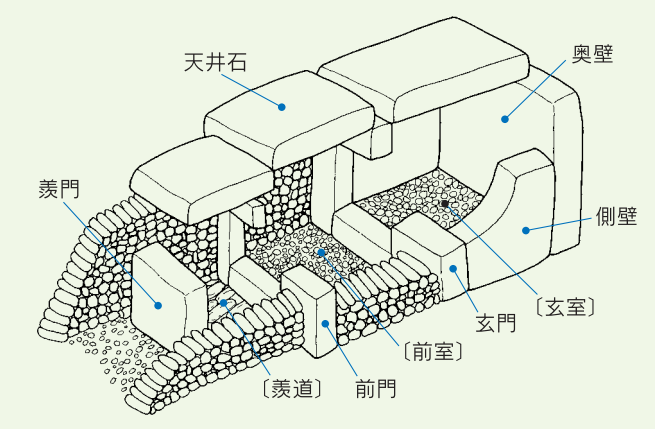
また、出土品（カワラケ･五輪塔）などから桃花原古墳の石材が抜かれた時期は、室町時代頃ということも判明しました。桃花原古墳の南には、ほぼ同時期に築かれた羽生田城があり、城を築くために大きな凝灰岩を必要とした可能性も考えられます。

前室･西側壁（南東より）

石室内部からは、「前室」の床面から馬具の帯先に使われていた金具が15点ほど、まとまって出土しています。この他、墳丘上に置かれていた須恵器の甕は故意に、底をうち欠いていたことも判明しました。

以上、3か年にわたる桃花原古墳の発掘調査により、墳丘･石室そして「前庭」の構造や造り方などが確認され、あまり知られていなかった終末期古墳の実態が少しづつ、明らかになってきました。

（壬生町教育委員会　君島　利行）



石室内部（北より）

五輪塔

下野国府跡（栃木市）

下野国府跡は栃木市田村町の思川右岸の沖積平野に所在し、昭和51年から58年まで栃木県教育委員会の38次にわたる発掘調査により、国庁跡など多くの遺構・遺物が出土している。昭和61年から63年には、史跡整備に伴う調査を実施している。下野国府跡の範囲は、県教育委員会の発掘調査により5町四方以上と判明したが、その後の調査などの成果により、長原東遺跡・中古洞遺跡・塚田遺跡を含む一帯と推定されるにいたっている。

今回の調査地は国府域東端付近の市道改良工事に伴うもので、調査の結果、奈良時代から平安時代前半頃の遺構・遺物が数多く出土しており、これまで調査事例がとぼしく不明な点が多かった国府域東部の様相を解明する手がかりを得た。

国府域内には国庁を基点とした地割遺構（溝や道路など）が存在することがすでに確認されているが、今回の調査により国庁の心から北1.5町（約162m）に位置する「北辺大路」の側溝（心々距離12m、側溝幅3.8m）を確認した。この道路跡は確認地点から西方約250mの地点の第20次調査ですでに確認されているものであり、今回の調査で国府域東限付近まで延びていることが判明した。また調査区内からは、「北辺大路」の遺構に先行する遺構と、後出する遺構が確認されている。先行する遺構は国府内の遺構と方向を異にする溝状のもの、後出する遺構は「北辺大路」の道路部に確認した井戸跡であり、周辺に確認した竪穴住居跡群と一体をなすものと判断される。

以上のことから、調査地内の遺構の変遷は、大きく3期に分けることができる。1期は国府設置以前の可能性があり、2期は「北辺大路」の段階であり国府設置初期の段階と想定される。掘立柱建物も3棟確認されている。3期は竪穴住居群が広がる段階であり「北辺大路」の機能はほとんど失われていたようである。

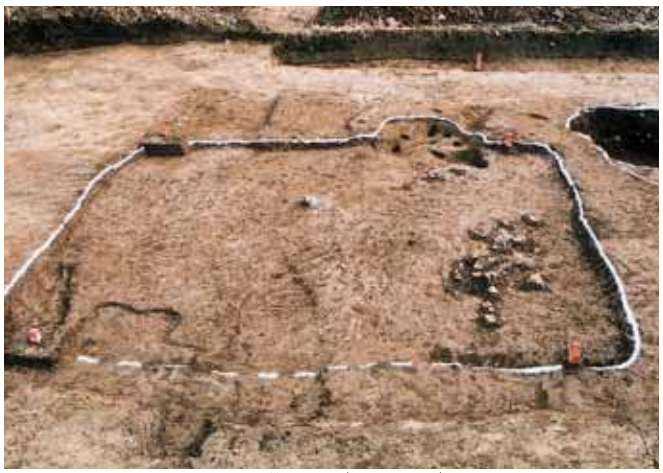
出土遺物は、3期のものが多く竪穴住居跡内からの土師器類やカマドの構築材として使われた瓦、遺物包含層からは縁釉陶器・灰釉陶器片が多量に出土している。そのほか石帯（巡方：一辺42mm・丸鞆が各1点）や舶載の青磁・白磁の出土があった。

（栃木市教育委員会　木村　等）

調査区北部全景（北から）

調査区中部全景（北から）

調査区南部全景（北から）


竪穴住居跡（SI−010）

下野国分寺跡（国分寺町）

これまでの金堂・中門・回廊の調査に続き、14年度の講堂・経蔵・鐘楼の調査、15年度は今まで未確認であった軒廊・僧房と東門の調査を行いました。

軒廊・僧房

調査は基壇の規模・構造を把握するため、基壇の隅の確認と礎石の位置の確認を優先した調査を行いました。僧房跡は、講堂跡の北側に存在すると考えられていましたが、この場所は以前、桑や梨の畑だったため、すでに遺構は壊されて無くなっていると考えられていました。

発掘調査により、礎石は露出していたものも合わせて12カ所確認できました。また、基壇外装と考えられる羽目石列などで、基壇規模と建物規模が確認できました。基壇規模は、東西74.1m（247尺）、南北16.8m（56尺）になり、建物規模は、東西69.3m（231尺）、南北12.6m（42尺）と推定されます。柱の間尺は、東西が中央間で21尺、他は7尺等間と考えられます。南北は、10尺・11尺・11尺・10尺になると考えられます。

部屋の配置は、讃岐国分寺の僧房と同様で、部屋数は10部屋と考えられます。僧房跡の西妻柱列は、西面回廊の西側の柱列と経蔵の西側柱列に合い、東側も同様で東妻柱列と鐘楼の東側柱列と柱筋が通ることが確認できました。現在確認された僧房の基壇下層に掘立柱建物の柱穴が確認されたことから、礎石の僧房になる以前にも建物があったと考えられます。

また、講堂の北側を講堂と僧房を結ぶ軒廊（渡り廊下のような施設）の存在が考えられたため一部追加調査しました。

昨年度の調査では、講堂に使われていないタイプの直径60cmの丸い石が1つ確認されていました。今回の調査によりもう1つ同じような石が出土したことから、軒廊の幅が回廊と同じ4.8mであったこともわかりました。また、その石の付近からは写真のように軒廊の落下瓦と講堂の落下瓦が屋根に葺かれた状態を保ちながら落下した様子が確認されました。

東門跡

東門跡は、以前県教育委員会が、金堂の真東の位置を調査しましたが、その時は仮設の金堂が確認されただけで、東門跡は確認されませんでした。今回は、伽藍地を囲むⅡ期掘立柱塀の北東隅柱と南東隅柱の中間に東門があったと想定して確認調査を行いました。築地塀外周を廻る溝が東門の位置で立ち上がることや、礎石の可能性のある石が確認できたことから、この位置に東門が付くと考えられます。

門の形状は、北門が棟門になることなどから、東門も棟門になると考えられます。

また今回の調査で、東門南側の築地塀版築層中から「富寿神宝」が2枚出土しました。

（国分寺町教育委員会　山口　耕一）

講堂と軒廊の落下瓦

僧房の礎石出土状態

富寿神宝

祇園城跡（小山市）

祇園城跡は、JR小山駅の西側に位置しています。西に流れる思川を天然の要害として、南北に延びる台地に堀や土塁を廻らし築かれています。

小山氏は、北関東の有力豪族として、鎌倉幕府の成立に貢献し、幕府において大きな権力をもっていました。この地で、鷲城や祇園城などを居城として長い期間活躍してきました。特に南北朝時代以降は、祇園城を居城に活動していました。

祇園城は、その後、戦国時代になると北条氏の支配するところとなり、江戸時代の初め、本多正純が最後の城主となりました。

城跡には、堀や土塁が良好に保存され、周辺には、小山氏ゆかりの神社や寺が所在しています。

城は廃城となってからも、大切に保存されてきました。小山市の誕生とともに、市民のシンボル「城山公園」として整備され、現在も、多くの市民に親しまれ利用されています。

平成4年、祇園城跡は、鷲城跡とともに国史跡に指定されました。今回の発掘調査は、城山公園を史跡公園として整備するための事前の発掘調査です。

城跡は、通常、堀や土塁によって区画されています。この区画された区域を曲輪と呼んでいます。曲輪や堀跡を描いた祇園城の絵図面が、現在まで多数残されています。こうした絵図面をみると、城の曲輪には、本丸、二の丸、塚田曲輪、祇園曲輪などの名称が付けられています。

今回の調査区は、絵図面に描かれた本丸と二の丸に設定したものです。調査は幅2mのトレンチを設け、遺構などの広がりによって調査区を広げることとしました。

南北方向に設定したトレンチからは、東西に伸びる堀跡や井戸跡、建物跡などが見つかりました。2条の堀跡のうち南側に位置する堀跡は、幅4m、深さ2mほどで、断面は逆台形をしています。この堀跡が、絵図面に描かれた本丸と二の丸を区画する堀と考えられます。また、この堀跡の北側には、堀に沿うように河原石の石敷きが調査されました。

また、人為的に埋め戻された堀などが見つかったことから、城の改変のようすが浮かび上がってきました。

写真は、今回の調査で見つかったもので、「独鈷杵（どっこしょ）」「五鈷杵（ごこしょ）」「六器（ろっき）」と呼ばれています。いずれも銅製です。これらは密教法具といい、現在でも寺院で使われています。出土状況や、ともに出土した遺物から判断すると、室町時代の頃のものと推定されます。

城跡からこうしたものが見つかることも不思議ではありますが、この地に寺院があったとも考えにくく、何らかの宗教行事に使用されていたものと考えています。

今回の調査では、このほか、青磁や白磁などの中国からの輸入陶磁器、すり鉢や火鉢、硯など多くの遺物が見つかっています。

祇園城跡の調査は、始まったばかりで、平成16年度以降も継続して実施する予定です。

（小山市教育委員会　秋山　隆雄）

堀跡

出土した密教法具（左から独鈷杵・五鈷杵・六器）

稲荷塚遺跡・谷頭溜遺跡（鹿沼市）

鹿沼市では、本年度から旧石器時代の遺物が出土した2遺跡の報告書作成作業を開始しました。市内で現在までに確認されている旧石器時代の遺跡は非常に少ないことから、この2遺跡の調査で得られた資料は、本市の旧石器時代の様子を知る上で貴重なものといえます。

〈稲荷塚遺跡〉

稲荷塚遺跡は鹿沼市街地の南東約8km、壬生町との境に近い下石川地内の低地を西に望む台地上に位置しています。調査は鹿沼市総合体育館建設に伴い、市教育委員会が平成7～8年に実施しました。その結果、旧石器時代後期（約20,000年前）の「石器ブロック」と呼ばれる遺物集中地点が確認されました。

石器ブロックは台地平坦面の関東ローム層中で見つかりました。その広がりは11m×5mほどです。このブロックからはナイフ形石器やスクレイパー、敲石などの製品のほか、石器を作る際にでた石核、剥片や砕片などが出土しました。使用された石材には高原山産の黒曜石、東北の日本海側産の珪質頁岩といった何らかの交流によって遠隔地からもたらされたものもあります。また、ブロックの北端には、火を受けて赤色化したこぶし大の石が集中する礫群があります。礫群は、熱した石を利用し、石焼きや石蒸しなどの調理を行った当時の台所と考えられており、石にはタール状の物質が付着しているものもあります。

〈谷頭溜遺跡〉

谷頭溜遺跡は鹿沼市街地の東3km、黒川支流の最奥部の台地上に位置しています。調査は道路建設に伴い、平成6年に行われ、旧石器時代後期（約15,000年前）の石器ブロックのほか、縄文時代の竪穴住居跡、陥し穴状土坑等が確認されました。

石器ブロックは台地平坦面と斜面の境で1箇所見つかりました。範囲は4m×3mで、尖頭器、ナイフ形石器のほか、石核、剥片などが、まばらな状態で出土しました。石材としては珪質頁岩、黒曜石、凝灰岩、流紋岩などが使われています。黒曜石は透明度が高く、不純物も少ないことから、長野県産のものと考えられます。

このブロックからやや離れた地点の暗色帯（約25,000～28,000年前）と呼ばれる地層より下層のローム層からは、敲石や黒曜石・チャートの剥片が数点出土しました。出土点数が少なく、石器群の性格は不明ですが、現在のところ本市で最も古い遺物です。

（鹿沼市教育委員会　永岡　弘章）

調査風景（稲荷塚遺跡）

石器ブロック遺物出土状況（谷頭溜遺跡）

石器ブロック遺物出土状況（稲荷塚遺跡）

暗色帯下層出土遺物（谷頭溜遺跡）

西赤堀遺跡

－北関東自動車道建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査－
栃木県河内郡上三川町西汗

現地説明会資料　2003年9月13日（土）
（財）とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
TEL　0285（44）8441（代）

はじめに

西赤堀遺跡は、上三川町の中心部から北に約6kmの宇都宮市との境に位置します。本郷台団地の造成時などに行われた調査では、大規模な掘立柱建物群や古墳、奈良時代の墳墓が確認されています。また、西には、笹塚古墳群や奈良時代につくられた東山道跡、南西約6kmには河内郡衙と推定される上神主・茂原遺跡など、周囲には多くの遺跡が存在しています。

埋蔵文化財センターでは、北関東自動車道建設に伴い、日本道路公団より委託を受け、平成13年度から発掘調査を実施しています。昨年度は古墳時代から奈良時代の住居跡60数軒がみつかりました。今年度は谷を挟んだ東側部分を調査した結果、古墳時代後期の円墳が2基、古墳時代から近世の土坑が74基確認され、古墳の石室から鉄製の直刀や馬具・鏃（やじり）、耳環（耳かざり）が、また、周りの溝からは、鉄製の斧や鏃、儀礼の際に使われたと考えられる土器などの遺物が出土しました。

今回の現地説明会では、これまでの発掘成果を広くご覧いただき、郷土の歴史や文化財に一層の関心をもっていただく機会になれば幸いです。

西赤堀遺跡全景（東から　手前が6号墳、奥が5号墳）

5号墳の確認状況（南東から）

石室の確認状況

石室の調査風景

奥壁際から出土した直刀と馬具

石室中央部から出土した耳環

5号墳全景（南西から）

周溝の内側で直径約25m、外側で約35mあります。古墳の上には民家があったため、古墳の南東部は大きく壊されていましたが、北部から西部にかけ、当時の墳丘（盛土）の一部が残っていました。

5号墳石室（南西から）

石室はすべて河原石が使用されています。特に奥壁には長さ約1m、厚さ約50cmの巨大な石が使われており、石室の中からは直刀・鏃・馬具・刀子・耳環などが出土しました。石室の長さは約5.5m、南西に開口しています。

階段状の施設（北東から）

壁の一部がえ

6号墳全景（南から）

周溝の内側で直径約20m、外側で約30mあります。畑地に利用されていたため、墳丘（盛土）はほとんど残っていませんでした。石室の前面には扇形に掘られた前庭部が見られます。

6号墳周溝の確認作業（南西から）

周溝の様子（北東から）

6号墳石室（北から）

奥壁及び側壁の石組みはほとんど抜き取られていましたが、床石や抜かれた石の跡を観察することで、石室の規模や作り方の様子がわかりました。石室内から遺物は確認されていません。石室の長さは約3.3m、南に開口しています。

周溝の中から出土した土器

石室の測量風景

ぐられた土坑

周溝北部から出土した鉄斧

前庭部から出土した耳環

おわりに

今回で、北関東自動車道関連の西赤堀遺跡の発掘は終了します。これまでの調査で西赤堀遺跡の全体像が明らかになってきました。

現在の調査範囲は墓域となっていて、谷を挟んだ西側の居住域とはっきりと区別されていたことが分かりました。また、今回発掘された２基の円墳（６世紀後半）から南側の古墳群（７世紀前半）へ墓域が次第に展開されていったことも分かりました。更に、この古墳群と集落跡とを関連づけて検討することが今後の研究課題です。

５号墳作業の様子

６号墳作業状況

本郷北小学校６年生の見学風景

平成16年2月28日　現地説明会資料

長者ヶ平遺跡

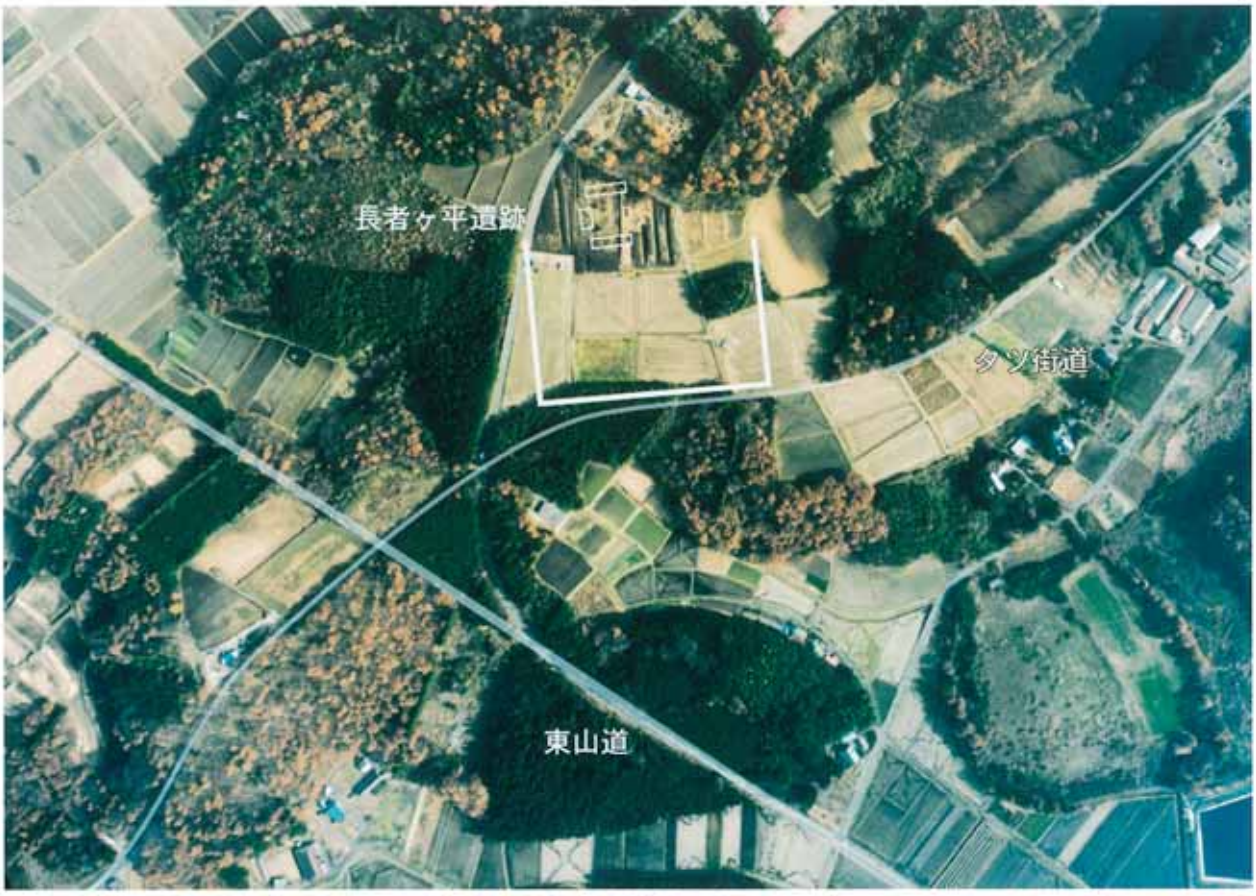
－重要遺跡範囲確認調査－
栃木県那須郡南那須町鴻野山字長者ヶ平

(財) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
栃木県下都賀郡国分寺町字国分乙474
TEL　0285（44）8441

1　はじめに

長者ケ平遺跡は、江戸時代から炭化米が採集できることから注目され、地元では長い間にわたって長者伝説の地として語り継がれてきました。将軍道と呼ばれる、東山道（推定）がすぐ北側を通ることや、厩久保・馬場ケ平の地名から古代芳賀郡に置かれた、新田駅家の有力な候補地とされた、古代の役所跡です。しかし発掘調査は実施されておらず、実態については不明のままとなっていました。

昭和63年度に、長者ケ平遺跡から西方400m離れた厩久保遺跡で東山道と推定される幅6～12mの道路跡が確認され、遺跡の究明が課題となっていました。そこで平成13年度から栃木県埋蔵文化財センターが栃木県教育委員会の委託を受けまして、遺跡の実態を解明するために５年計画で発掘調査を進めています。平成15年度は３年目になります。



長者ヶ平遺跡と東山道位置図（西上空から）

第１次・東脇殿北側の楼風の建物跡（南から）

第２次・掘立柱建物群全景（東から）

第２次・北辺大溝（東から）

まず平成13年度（第1次）の調査で、南面する正殿（せいでん）を中心にして東西に長大な脇殿（わきでん）をコの字型に建てた、古代の役所跡になることが明らかになりました。

平成14年度（第1～3次）は引き続き、コの字型建物群とその周辺の調査を行い、役所を囲む北側の溝や数多くの建物跡を確認し、奈良時代から平安時代（8～9世紀代）にかけて長い間、役所として使われていたことが明らかになりました。

2　今回の調査

今回は、コの字型建物群の南西側（第4次）、北東側（第5次）、西側（第6次）の3箇所（約8,000㎡）を調査しています。

第4次調査　役所の南西隅を確認するために行いました。ここは東山道と十字に交差する、タツ街道（推定・古代道路）が通っています。ここでは、役所の南西隅を限る幅4m、深さ1.5mの大きな溝や、その内側に掘立柱建物跡1棟が見つかり、役所の広がりが南北220m（約2町）になることがわかりました。またタツ街道の東側溝を見つけましたが、残念ながら古代まで遡る道路になるかはわかりませんでした。

コの字型建物群と今回の調査地点（北から）

第５次調査　役所の北東隅を見つけるために、丘陵の平坦部北東部を調査しました。ここで役所を囲む溝が見つからず、礎石建物跡1棟（倉）がありましたので、役所の広がりは東西250m以上になることが予想されます。

第６次調査　コの字型建物群の西側正面に、どのような建物があるかを調べるために行いました。数多くの建物跡など（掘立柱建物跡10棟、礎石建物跡5棟、東西溝1条）を見つけました。建物の特徴（総柱式建物が多い）から、ここに倉庫（穀倉）が建ち並ぶことが明らかになりました。また調査区南東部で、長さ34m以上の大きな掘立柱建物跡も見つかっております。これは倉庫ではないと思われますが、用途はわかっていません。

３　まとめ

今回の調査によって、役所が予想以上に広くなり、コの字型建物群の西側に倉庫が建ち並ぶことなどがわかりました。

役所の広がり　溝で限られており、南北が220m（約2町）、東西は250m以上となり、敷地は大変広いことがわかっております。

建物配置　大きくみると、コの字型建物群の西側が倉庫群になっていることや、コの字型建物群と倉庫群を塀や溝で分けていないことが明らかになりました。ただしタツ街道に面したコの字型建物群の西側正面には景観を意識したためか、建物を置かないこともわかりました。

建物火災と炭化米　これまでも炭化米が出土していることから、倉庫群の火災が推定されてきました。調査によって、奈良時代に数多くの倉庫が焼けたことがわかりました。

さらに炭化米だけでなく、炭化粟（アワ・ヒエ）の可能性がある炭化物も出ております。今後、分析を行い、炭化粟であるかどうかを調べていく予定です。

この遺跡が古代役所であることははっきりしていますが、新田駅家になるのか、芳賀郡衙関連遺跡になるのか、新田駅家と芳賀郡衙が複合した遺跡になるのか、具体的な遺跡の性格はわかっておりません。同じ芳賀郡内の真岡市堂法田遺跡（芳賀郡衙）や中村遺跡（正倉別院か）をふくめて、どのような役所になるのか、今後の調査で明らかにしていきたいと考えています。

第３次・総柱式の掘立柱建物跡（東から）

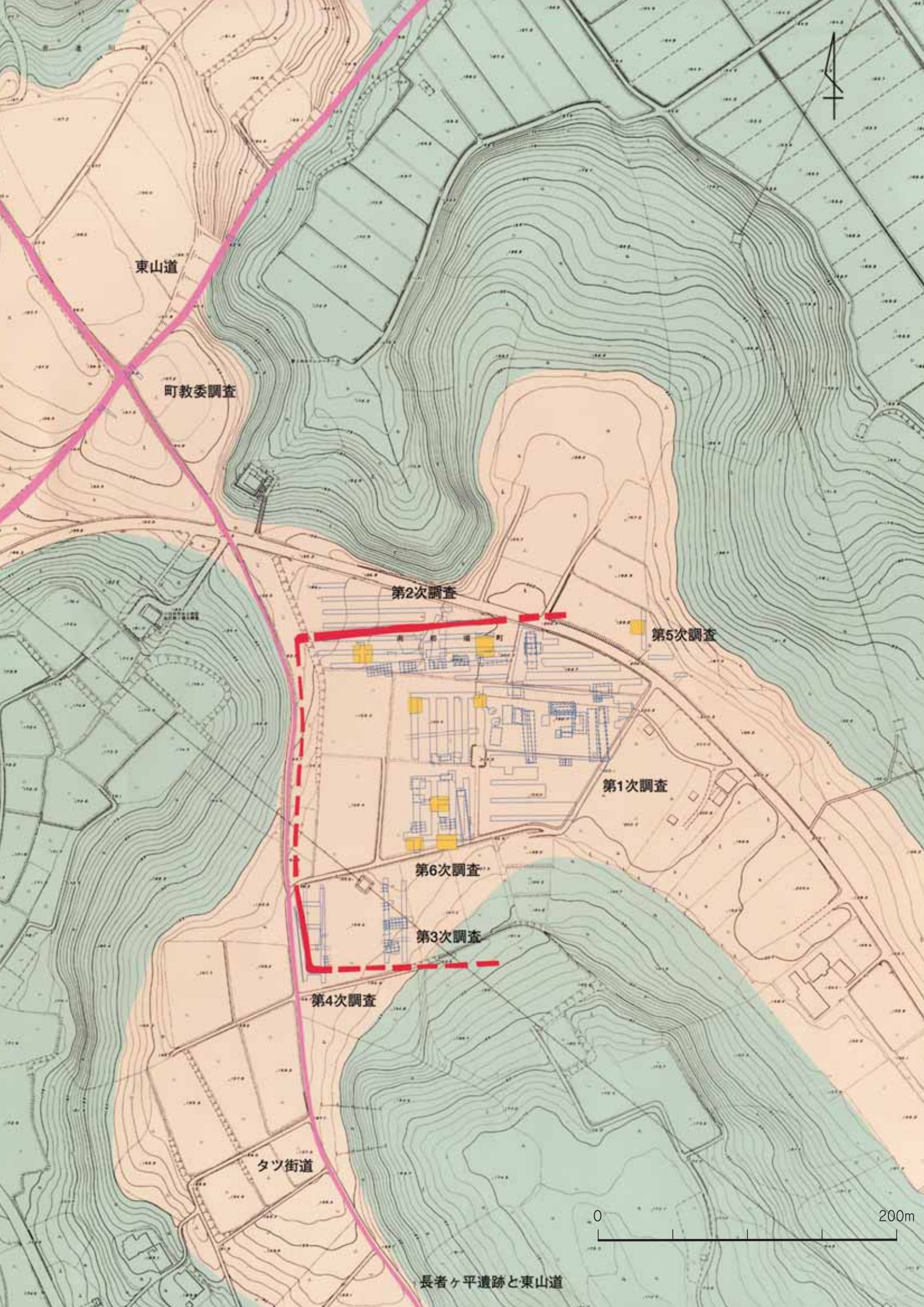
第４次・南西隅部（南西から）

第４次・南辺大溝（南西から）

第５次・礎石建物跡（南から）

第６次・総柱式の掘立柱建物跡（北東から）

第６次・側柱式の掘立柱建物跡（北から）



長者ヶ平遺跡と東山道

しもつけ風土記の丘資料館・
栃木県立博物館・
なす風土記の丘資料館

平成16年度 巡回展 栃木の遺跡

―最近の発掘調査の成果から―

栃木県では、毎年多くの遺跡で発掘調査が実施されています。それらを、出来るだけ早い時期に、より多くの方に理解して頂くため、近年調査された遺跡とそこから出土した土器資料等を、県南、中央、県北と順次、県立施設3館で巡回して紹介するものです。多数ご来場くださいまして、文化財を身近に感じ、郷土の祖先の暮らしを振り返ってみて下さい。

☆主な展示予定資料

展示室のスペースや遺物の整理日程の都合により、各館の展示資料が変更になることがあります。

西暦	時代	
B.C. 10000ごろ	旧石器時代	稲荷塚遺跡（鹿沼市） 谷頭溜遺跡（鹿沼市）
B.C. 400ごろ	縄文時代	上り戸遺跡（芳賀町） 北の内遺跡（佐野市） 明神前遺跡（鹿沼市）
A.D. 300ごろ	弥生時代	戸木内遺跡（粟野町）
710	古墳時代（飛鳥）	藤本観音山古墳（足利市） 小山添遺跡（小山市） 西赤堀狐塚古墳（上三川町） 塚原古墳群（河内町） 三輪仲町遺跡（小川町） 琴平塚古墳群（宇都宮市） 桃花原古墳（壬生町）
1192	奈良・平安時代	下野国府跡（栃木市） 下野国分寺跡（国分寺町） 新開遺跡2号地点（国分寺町） 上り戸遺跡（芳賀町）
1603	鎌倉室町時代	祇園城跡（小山市）
1868	安土桃山時代	
	江戸時代	桜町陣屋跡（二宮町）
	明治大正昭和	鑁阿寺　十二坊跡（足利市）

平成16年4月10日（土）～5月16日（日）

しもつけ風土記の丘資料館

下都賀郡国分寺町国分993（Tel. 0285-44-5049）

栃木県埋蔵文化財センター

●平成15年度発掘調査報告会

日　時：8月7日（土）10:00～15:00
会　場：栃木県立博物館　講堂（詳細→24ページ）

平成16年7月17日（土）～9月12日（日）

栃木県立博物館

宇都宮市睦町2-2（Tel. 028-634-1311（代））

●テーマ展展示解説

8月8日（日）13:30～15:30

平成17年2月2日（水）～3月13日（日）

なす風土記の丘資料館

展示会場：湯津上館
那須郡湯津上村湯津上192（Tel. 0287-98-3322）

●講演会と展示解説

日　　時：2月27日（日）13:30～15:30
講演会場：なす風土記の丘資料館小川館
那須郡小川町小川3789（Tel. 0287-96-3366）
演　　題：「最近の発掘調査成果から
～桃花原古墳について」
講　　師：壬生町教育委員会 学芸員 君島 利行 氏

3館共通　利用の案内

開館時間：9:30～17:00
（入館は16:30まで）
休 館 日：月曜日（祝日・休日を除く）
祝日・振替休日の翌日
観 覧 料：博物館　一般250（200）円
大学・高校生120（100）円
資料館　一般100（80）円
大学・高校生 50（40）円
※（　）内は20名以上の団体料金
※中学生以下は無料

栃木県埋蔵文化財センター
栃木県立博物館
共催

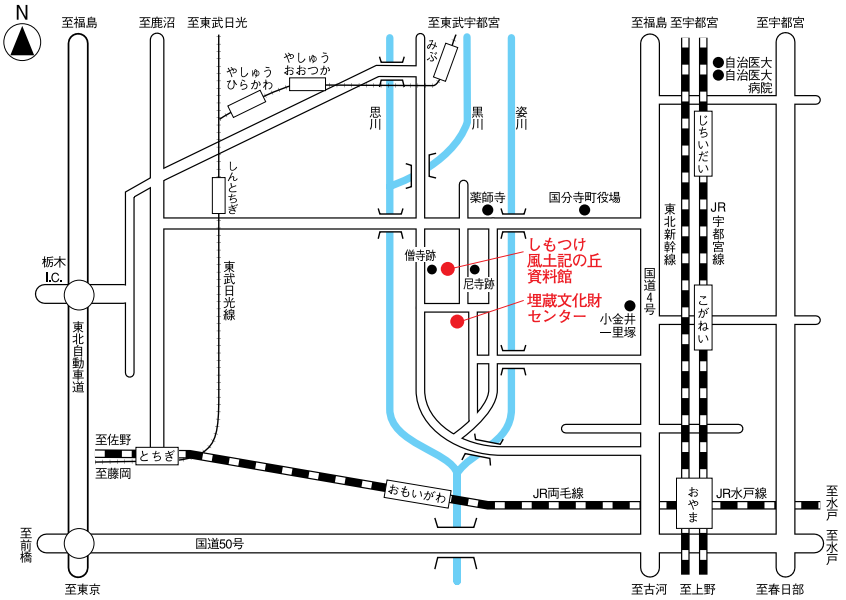
平成15年度 発掘調査報告会

当埋蔵文化財センターでは調査発掘した中からいくつかの遺跡について、年度ごとに報告会を行っています。平成15年度は、下記の7遺跡に決定しました。調査担当者による一般向けの解説です。スライド等を使い、わかりやすく報告致します。

日時：平成16年8月7日（土）
　　午前10時～午後3時
場所：栃木県立博物館　講堂
定員：200名
入場：無料
申込：県立博物館普及資料課（028-634-1312）まで
　　電話にてご連絡ください。
発表遺跡：1. 栃平B遺跡・古館遺跡（馬頭町）
　　2. 赤曽Ⅱ遺跡・亀山北遺跡（真岡市）
　　3. 曲田遺跡（二宮町）
　　4. 西赤堀遺跡（真岡市）
　　5. 長者ヶ平遺跡（南那須町）
　　6. 塚原古墳群（河内町）
　　7.上り戸遺跡（真岡市）

編集後記

天平の丘公園が色鮮やかな桜と花見客でにぎわう頃、私はせっせと〈やまかいどうNo.36〉の原稿に追われていました。みなさんが〈やまかいどうNo.36〉をご覧になる頃にはきっと青葉のまぶしい季節になっていることでしょう。さて、毎年好評をいただいている発掘調査報告会ですが、今年は8月7日（土）に開催されます。夏休み中ということもあり、ぜひご家族でおでかけ下さい。



《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から約9km、車で約20分

編集　（財）とちぎ生涯学習文化財団
　　埋蔵文化財センター
発行　栃木県埋蔵文化財センター
　　〒329-0416
　　栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
　　TEL 0285-44-8441（代）FAX 0285-44-8445
　　E-mail　webmaster@maibun.or.jp
　　URL　http://www.maibun.or.jp/
印刷　ヤマゼン コミュニケイションズ（株）